

Ⅲ 公共交通に関する各種調査



市民や来訪者の交通手段の選択の実態・意識、公共交通全体に関わる改善に向けた着眼点等を把握するため、下記の調査を行いました。調査結果からポイントとなる事項を次頁より示します。

1 市民へのアンケート

市民の外出や公共交通の利用状況、意向等を把握するため、各地域から無作為抽出し、郵送配布・回収方式によるアンケートを行いました。（配布数：4,000、回答数：1,669）

2 公共交通利用客へのアンケート

上記の無作為抽出の市民アンケートでは、公共交通利用者の回答が僅少になると想定されたため、外出や利用交通手段の状況、意見等を把握するため、古川駅・塚目駅、市民病院バス乗り場での直接配布によるアンケートを行いました。（配布数：500、回答数：139）

3 観光客へのアンケート

市外からの来訪者を含む観光客の状況や意見を把握するため、市内4施設（鳴子温泉観光案内所、早稲田棧敷湯、しんとろの湯、あ・ら・伊達な道の駅）の協力により、アンケートを行いました。（配布数：220、回答数：126）

4 地域内公共交通等の利用客へのアンケート

地域内公共交通とグループタクシーの利用状況や意見を把握するため、運行事業者の協力による車内配布、登録者への郵送によるアンケートを行いました。（配布数：405、回答数：246）

1 市民へのアンケート

市民へのアンケート調査について、調査結果からポイントと考えられる事項を以下に示します。

●利用できる交通手段の状況について

- 回答者の約8割が自分用または家族共用のクルマを持っています。
- 運転免許を持っていない人が約2割で、そのうち2割弱の人が、クルマによる送迎者がいない状況です。

●外出の状況と交通手段について

- 通勤・通学をしている人のうち、計3割程度の通勤・通学先が古川地域で最も多く、仙台市等の市外へ通う人も同程度いる状況です。
- 普段の買い物先や通院先として、計4割程度がイオンや大崎市民病院のある古川地域で特に多くなっていますが、自宅の近所など各地域で買い物や通院をする人もいます。
- 特別な買い物や遊び等では、古川地域だけでなく、仙台市等の市外に出かける人もいます。
- いずれの外出時にも、自分でクルマを運転する人が7割程度と突出しており、クルマによる送迎や同乗をする人も見られることから、クルマの利用が多く、公共交通を利用する人は少ない状況です。また、自転車や徒歩での外出も少ないです。
- 月に1日以上、市中心部へ出かける人が計7割程度いる状況であり、市中心部が市民の日常的な外出先になっていることが伺えます。

●公共交通の認知・利用状況について

- 市民バスや地域内公共交通等について、路線等まで認識している人は約1～2割と少ない状況です。
- 公共交通の利用について、乗ったことがないと回答した人がいずれの公共交通も最も多く、鉄道で約6割、市民バスで約9割を占めています。

●交通手段に対する意識、希望等について

- 公共交通の満足度について、乗らないので分からないと回答した人が半数以上を占める状況です。
- 公共交通の不満な点として、駅やバス停での待ち合い環境、駅へのアクセス、地域内公共交通等の運行方法・仕組み、公共交通全体の分かりやすさ等と回答した人が比較的多くなっています。
- 公共交通が改善されても利用しない、少ないまま利用する回数は変わらないと回答した人が計3割程度、利用するか分からないと回答した人も3割程度いる状況です。

●今後に向けた考え方等について

- 将来の交通手段について、約3割の人がクルマを運転できなくなることを不安に感じ、約2割の人が、送迎者がいなくなることに不安を感じており、クルマに依存していることに伴う不安が大きい状況となっています。
- 今後に向けた考え方として、地域の公共交通の持続・活性化に賛同する意見が比較的多く得られています。

2 公共交通利用客へのアンケート

公共交通利用客へのアンケート調査について、調査結果からポイントと考えられる事項を以下に示します。

●利用できる交通手段の状況について

- 回答者の約6割が自分用または家族共用のクルマを持っています。
- 運転免許を持っていない人が約4割で、そのうち3割強の人が、クルマによる送迎者がいない状況です。

●外出の状況と交通手段について

- 通勤・通学をしている人のうち、5割程度の通勤・通学先が古川地域、4割程度が仙台市となっており、市民アンケートと比較すると、鉄道の利用が多く見られます（主に古川駅での回答者）。
- 普段の買い物先や通院先としては、古川地域や自宅の近所が多い状況です。
- 特別な買い物や遊び等では、古川地域が5割強と最も多くなっていますが、仙台市に出かける人も2割程度います。
- 通勤・通学時以外は、クルマの利用（運転、送迎・同乗）が突出して多い状況ですが、市民アンケートと比較すると、公共交通を利用する人が多く、徒歩で出かける人も比較的多く見られます。

●公共交通の認知・利用状況について

- 市民バスや地域内公共交通等について、路線等まで認識している人は約2～3割と少ない状況ですが、市民へのアンケートと比較すると多くなっています。
- 公共交通のうち、鉄道をよく利用している人が多く見られ、他の公共交通についても、高頻度で利用している人が少ないながらいる状況です。

●交通手段に対する意識、希望等について

- 公共交通の不満な点として、公共交通全体の分かりやすさ、古川駅の分かりやすさ、駅やバス停での待ち合い環境、古川駅での乗り継ぎ等を回答した人が多くなっています。
- 公共交通が改善された際に、計7割程度が今よりも利用回数が増えると回答しています。

●今後に向けた考え方等について

- 将来の交通手段については、市民アンケートと同様、クルマに依存していることに伴う不安が大きいの状況となっていますが、約半数の人が電車やバス等の減便や廃止を不安に感じています。
- 今後に向けた考え方として、地域の公共交通を持続・活性化に賛同する意見が多くなっています。

3 観光客へのアンケート

観光客へのアンケート調査について、調査結果からポイントと考えられる事項を以下に示します。

● 来訪者について

- 回答者のうち家族や夫婦等、複数人で訪れる人が多く、約8割が温泉を目的に来訪しています。
- 月に1回以上や年に数回訪れている人が多く、大半がリピーターです。

● 交通手段について

- 大崎市までの交通手段として、自分でクルマを運転する人が7割程度と突出して多く、送迎・同乗の人もいる状況ですが、遠方からの来訪者も見られたことから、一部、新幹線等の鉄道を利用している人もいます。
- 大崎市内での交通手段としても、クルマ（運転、送迎・同乗）の利用が多い状況で、鉄道やバスを利用している人は少数です。

● 公共交通の認知状況について

- 鉄道やバスの認知度について、存在を知っている人はどちらも8割程度と多い状況ですが、路線等についても認識している人が、鉄道は約4割、バスは1割強と少ない状況です。

● 公共交通の改善点等

- 大崎市内での公共交通で分かりにくいこととして、約2～3割が鉄道やバス等の路線やダイヤの情報と回答しています。
- 観光の視点からの改善点としては、増便や案内の充実、観光地へのアクセス手段、観光地を回る手段等が挙げられています。

4 地域内公共交通等の利用客へのアンケート

地域内公共交通とグループタクシーの利用客へのアンケート調査について、調査結果からポイントと考えられる事項を以下に示します。

●利用客について

- 利用客（回答者）は、高齢者が中心となっています。
- 約6割が運転免許を持っておらず、そのうち、約1割は免許を返納した人です。
- 気軽にクルマでの送迎を頼める人がいないと回答した人が、約4割いる状況です。

●地域内公共交通等の利用について

- 利用している人は、月1～3日の利用が多く、9割以上の人が通院、6割強の人が買い物を目としています。
- 利用時の行き先の数について、半数以上が1カ所と回答していますが、複数箇所行く人も4割程度見られます。
- 7割以上が往復で利用しており、片道のみ利用している人は、帰りの時間が読めず予約ができない、家族に送迎してもらうので必要ない等の理由が挙げられています。
- 登録をしているものの利用しない人の理由としては、クルマを使うので必要がないとの理由が大半でした。

●地域内公共交通等の改善点等

- 地域内公共交通等の良い点について、運賃が安いこと、自宅近くから乗降できること等が挙げられています。
- 利用客からは、帰りの便が合わず利用できない、複数の場所をまわるのに都合がよくない、通院の際には相乗りしにくい、予約の仕組みを改善してほしい等の意見が挙げられています。